

（1）

# 県民の友

49.8

発行/和歌山県知事公室広報課 和歌山市小松原通1の1

健

炎天下に、全身を動かし、汗を流すことはすばらしい。木かけの涼しさ、水の冷たさ…こんなときほど健康の喜びを感じるときはありません。心身ともにたくましく鍛えることが私たちに生きる力を与えてくれるのです。

健康和歌山!!

和歌山県知事 大橋正雄



## さわやか!! 自然とのふれあい

100km テクコロジー

「みなさん、見てください。あの斜面の樹木は、シイ、ウラジロガシ、ケヤキ、自生のスギやヒノキなど、多くの木が組み合わさって成育しているんです。これが、この渓谷の特長で日本でも非常にめずらしいといわれています……」

自分の足を使って、自然のふところへ入っていき、自然のしくみ、自然のいとなみを認めようと、ことしから始めた百キロテクコロジー。今回は、奇岩をぬって、ほとばしる滝、そしてせせらぎがすばらしい大塔百間山渓谷を探索しました。

みなさんも、自然に接する機会をつくり出し、大いに自然に親しみましょう！



「あまりせかさないで、ボク一生懸命なんだから」



100kmテクコロジーとは……

郷土の美しい山や野原、そして海辺などを“てくてく歩く”ということと、“エコロジー”（生態学—生物の生活状況を研究する学問）をもじった造語—テクコロジー。

1回約15kmのコースを1年間に6回歩き、全コース参加すると100kmを歩くことになります。

第3回100kmテクコロジー

9月、スキが風になびく生石高原で開催予定



家族づれや、グループ …… 県下各地から  
1,100人が参加。サーキット出発です。

県議会だより《六月定例会》

## みかんの生産

## 安定期策について

今年もみかんの生産は全国で四百万トンを突破すると予想され、豊作貧乏、みかん農家の危機招来が叫ばれている。これら農家の不安解消について次のような質疑がおこなわれました。

# みかんの生産安定対策と経済の激動下における中小企業対策を中心



六月定例会は

## 経済の激動下における中小企業対策について

七月十九日までの二十二日間にわたり開かれ補正予算、条例、人事案件など議案二十一件、及び意見書三件等の議決を行つたほか請願の採択などを行いました。

とくに今回は、全国的に豊作が予想されるみかんについての対策や、中小企業に対する安定対策などについて活発に論議されました。

○質問 ▽答弁

- みかんの生産調整、出荷規制の成果との見通しは。
- 果樹共済(減収方式)に全農家が加入するよう、積極的な努力を。また、愛媛県が試験的に実施している所得共済の方式を取り入れる考えはない。
- みかんの消費拡大についての具体的な方策は。また、七億余の人口を有する中国への輸出見通しは。
- 加工原料柑のわくの拡大と保証基準価格の引き上げは。
- みかんの新品種「セミノール」を県の奨励品種に加え補助対象にする考えは。
- 紀勢線の列車内におけるジユース、生みかんの販売促進を。
- ▽みかんの緊急対策として、ジユース工場の増設による原燃料柑の倍増処理、四十八年度の二十%生産調整、長期対策として不良園の改植促進加工向けみかんの増加、価格安定対策の推進が図っている。
- ▽果樹共済(減収方式)の加

- ▽六月二十八日招集され六月定例会は
- ▽六月二十八日までの二十二日間にわたり開かれ補正予算、条例、人事案件など議案二十一件、及び意見書三件等の議決を行つたほか請願の採択などを行いました。
- 融資の強化のみでなく、商店街の振興、税制面での優遇など幅広い対策を。
- 県単独の経済変動対策資金

来春四月におこなわれる県議会議員の選挙区別定数を決める条例が七月十八日の本会議で可決されました。

その選挙区別定数はつきのとおりです。

選挙区		定 数
和歌山市	十五人	那賀郡
海南市	二人	伊都郡
橋本市	一人	有田郡
御坊市	一人	日高郡
田辺市	三人	西牟婁郡
新宮市	二人	東牟婁郡
計		四十六人

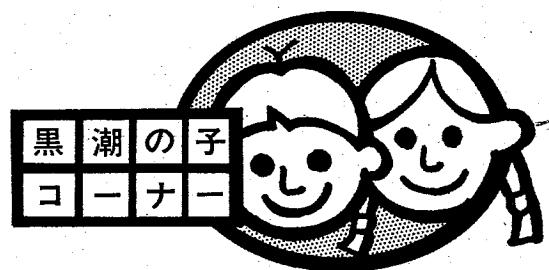
## 県議会議員の選挙区別定数決まる。

暑中お見舞い  
申しあげます

和歌山県議会議員

岡 本 嘉 一	長 田 嘉 一	森 利 雄
島 木 俊 一	渡 辺 真 一	山 崎 利 一
島 木 正 義	島 木 正 義	土 中 村 常 夫
島 木 隆 弥	松 本 新 一	利 鹿 五 郎
鍋 島 武 雄	鍋 島 武 雄	西 林 忠 重
浦 岩 岩 尾	浦 岩 岩 尾	肥 喜 英
岡 野 茂 郎	岡 野 茂 郎	中 妙 一
山 下 柳 雄	山 下 柳 雄	村 喜 川 矢
山 崎 幹 雄	山 崎 幹 雄	常 廉 九
旅 田 卓 宗	旅 田 卓 宗	造 史 長 恵
山 本 有 造	山 本 有 造	利 順 史
塙 坂 治 郎	塙 坂 治 郎	利 一 明 九
外 田 豊 吉	外 田 豊 吉	重 一 順 九
松 本 計 一	松 本 計 一	英 長 恵 九
森 岡 辰 男	森 岡 辰 男	友 順 九
植 野 炳 一	植 野 炳 一	友 勇 九
浜 本 敏 一	浜 本 敏 一	清 力 九
町 田 義 友	町 田 義 友	藏 勇 九
大 江 敏 一	大 江 敏 一	雄 一 九
収 友 隼	収 友 隼	郎 五 九
(議員名簿順)		

### (3) 県民の友



## 外へ出るときは帽子を 二わい日本脳炎

原因　「日本脳炎ビールス」をもつたコガタアカイエガにさされることによって感染します。完全に治るのが約半数、三、四割が死亡、助かつても手足にマヒが残ったり、知能がおくれたりする危険な病気です。

症状　急に高熱、吐き気、激しい頭痛、腹痛などが起ります。二、三日中に発熱状態、けいれんを必要とします。

予防　七、九月が流行期ですが、蚊の発生を防ぎ、蚊にさされないようになります。特に、子供は帽子や服を被ることで保護できます。

題材　昭和四十四年一月一日以後に生まれた丈夫でたくましく育つている子供たちです。黒潮の子にふさわしい写真を募集しています。

サイズ　白黒・カラーの

差別はどのようにして生まれ推移してきたのだろうか

（古代のはじめ頃）  
おそらく大陸からでしょう（中国→朝鮮→日本）水田に稲を植える農業と、そのほかの生産技術が伝わるに及んで、日本は、今からおよそ二千年前のことなのです。

差別の芽が動きはじめました

（古代のはじめ頃）  
中國の古い書物にも、三世紀頃の日本には大人・下戸という身分差別が生まれ、土下座や主人の死に奴隸がしたがって死なねばならないことなどが書かれているのを見ても当時のことが想像できるのです。

古代賤民がつくられました

（奈良・平安時代の頃）  
七世紀中頃の大化の改新では、「貴賤・男女」の法で、これらの人々は自然を歩き、自然とともに生きながら食物を得る生活が、ある所に定着して大きな収穫とその貯えができる生活になりました。人口もふえ、便利で住みよい土地を中心に集まるような形も出来ました。人々は、直接農業に従事しないで、その農具づくり専門などもありました。

人々は自然を歩き、自然とともに生きながら食物を得る生活が、ある所に定着して大きな収穫とその貯えができる生活になりました。人口もふえ、便利で住みよい土地を中心とするようになります。人々は、直接受けたがりでなく、他の人間に譲り受けた人々や力の弱い百姓などをつかって、どん

止し、ある者は解放、ある者は新しい賤民性に組み入れました。この時の制度は唐の模倣で、陵戸（皇室の墓守り）と從事者（私有地の管理や税のとりたてに従事）、公奴婢（皇族につかえた奴隸）、私奴婢（豪族につかえた奴隸）の五つの階層があり、俗に「五色の賤」といわれます。

たとえば天皇神聖などは、その代表的なものですが、直接部落は賤民といわれた人々や力の弱い百姓などをつかって、どん

ども開墾をし、広い広い私有地をつくっていきました。

これがやがて「莊園」と呼ばれるようになり、この制度とともに莊園を守るために力をたくわえる必要に迫られ武士が誕生しました。

このあだりから、よい土地と働くおおぜいの人々がほしいと申すが、幸いこの峠を越します。すと七十日ぐらいで熱も下がり快方に向かいます。

予防　七、九月が流行期ですが、蚊の発生を防ぎ、蚊にされないようになります。特に、子供は帽子や服を被ることで保護できます。

題材　昭和四十四年一月一日以後に生まれた丈夫でたくましく育つている子供たちです。黒潮の子にふさわしい写真を募集しています。

（奈良・平安時代の頃）  
七世紀中頃の大化の改新では、「貴賤・男女」の法で、これらの人々は自然を歩き、自然とともに生きながら食物を得る生活が、ある所に定着して大きな収穫とその貯えができる生活になりました。人口もふえ、便利で住みよい土地を中心とするようになります。人々は、直

接受けたがりでなく、他の人間に譲り受けた人々や力の弱い百姓などをつかって、どん

ども開墾をし、広い広い私有地をつくっていきました。

これがやがて「莊園」と呼ばれるようになり、この制度とともに莊園を守るために力をたくわえる必要に迫られ武士が誕生しました。

このあだりから、よい土地と働くおおぜいの人々がほしいと申すが、幸いこの峠を越します。すと七十日ぐらいで熱も下がり快方に向かいます。

予防　七、九月が流行期ですが、蚊の発生を防ぎ、蚊にされないようになります。特に、子供は帽子や服を被ることで保護できます。

題材　昭和四十四年一月一日以後に生まれた丈夫でたくましく育つている子供たちです。黒潮の子にふさわしい写真を募集しています。

（奈良・平安時代の頃）  
七世紀中頃の大化の改新では、「貴賤・男女」の法で、これらの人々は自然を歩き、自然とともに生きながら食物を得る生活が、ある所に定着して大きな収穫とその貯えができる生活になりました。人口もふえ、便利で住みよい土地を中心とするようになります。人々は、直

接農業に従事しないで、そのまま技術が伝わるに及んで、日本は、今からおよそ二千年前のことなのです。

（奈良・平安時代の頃）  
七世紀中頃の大化の改新では、「貴賤・男女」の法で、これらの人々は自然を歩き、自然とともに生きながら食物を得る生活が、ある所に定着して大きな収穫とその貯えができる生活になりました。人口もふえ、便利で住みよい土地を中心とするようになります。人々は、直

接農業に従事しないで、そのまま技術が伝わるに及んで、日本は、今からおよそ二千年前のことなのです。

（奈良・平安時代の頃）  
七世紀中頃の大化の改新では、「貴賤・男女」の法で、これらの人々は自然を歩き、自然とともに生きながら食物を得る生活が、ある所に定着して大きな収穫とその貯えができる生活になりました。人口もふえ、便利で住みよい土地を中心とするようになります。人々は、直

## 県施設めぐり—3 イノブタ生産に力を注ぐ畜産試験場

全国に先がけてイノブタ交配に成功した県畜産試験場。目の前には、豚の混血。昭和43年来、2種の豚の混血を生かして牛肉の味に近づけています。また、家畜の排泄物の浄化処理施設などの研究も進められています。場内には、イノブタの外に、肉牛や乳牛、そして豚など、約10頭もの家畜を控え、環境はバツグン。

見老津一一番地

●和歌山県畜産試験場  
○和歌山県西牟婁郡すさみ町  
電話 周參見〇七三九五五二四三〇



